



小石



江戸時代の歌人で、現在の室戸市出身の「川村与惣太」の歌碑が、小石地区の対岸の江師にある。この歌碑に「今宵しも 夢にぞ見つる 故郷を こひしの里に 草枕して」とあるが、この「こひし」は小石の集落のことである。与惣太が、この地を訪れたとき、小石の集落が自分の故郷と重なり、懐かしさをこめて詠んだ歌である。

大正・田野々から、国道439号を榑原川沿いに中津川方面に行く。二つ目のトンネル（小石トンネル）の入り口直前を左に折れるとすぐに、自家用の薪をきれいに積み上げたお宅がある。そこからが小石の集落である。このお宅の薪を積み並べた美しさは、時々写真を撮りにくる人がいるほどである。小石は四万十町内の大字としては最も面積が小さい。ほんの数メートルの間に、11世帯27人の人が暮らしている。

終戦後くらいまでは、林業のかたわら、駄菓子屋や、食料品店を営む人、行商などで呉服屋や畳屋を営む人など、地区住民の副業が多彩であったという。

また、地区出身の60代の方のお話によると、その方のお父様の時代には、おそらく民間療法の医師であると思われるが、田野々以北

さて、農地も全部で1〜2町ほどの小さな小さな集落ではあるが、昔から子どもの多いところであったという。大正地区の中心地と比較的近いということもあって、今でも、昔ほどではないが子どもの声の絶えない賑やかな集落で、世帯数もここ50年で減ったのは一軒だけなのだそう。

与惣太が見た、当時の小石の里も子どもが駆け回る賑やかなところであったのだろうか。



川村与惣太の歌碑

限定の医師免許（というものが存在したらしい）を持つ人がいて、子どもたちが「蛭」を捕まえて持っていくと、その医師がお小遣いをくれたのだそう。患者の血を吸わせて治療をするためである。



もはや、ただの薪には見えないほどの美しさ

町のうごき	(1月31日)		前月比	出生 死亡 転入 転出				適正值(mg/l)	2月12日	
	男	女		男	女	計	リン酸		硝酸	アンモニウム
	8,845	9,951	-10	1	14	13	10	≤ 5.0	測定値以下	
			-26	5	17	10	24	≤ 0.5	0.579	
	18,796		-36	6	31	23	34	≤ 5.0	測定値以下	
	8,754		-6	(1月中の届出)				≤ 1.0	0.350	
								≤ 10.0	1.812	

四万十町の
水質状況

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)